

〈論文〉

# 中国語語順体系に貫かれた 構成原則について

— 基本語順の設定とその核心的 SVO の位置づけを中心に —

平 山 邦 彦

## 要 旨

中国語の基本語順は一般的に SVO と認識されている。本稿では、日本人にとって適した語順体系の確立を目指しその触りの部分を論じた。本稿では、中国語の文は SVO を核心とし、各種構文は SVO に対するコーティング形式という考えのもと、議論を進めている。まずは既存の代表的分析法を概観し、SVO 語順を核心とした語順分析について言及した。その上で、(1)日本人にとって SVO の基本関係は日本語の「-を」「-に」等幾つかのパターンで括られる、(2) SVO と他の構文のコーティング関係において、SVO は文意的核心ではなく認知的核心を示す、という2点を指摘した。

キーワード：語順，言語背景，SVO，コーティング，認知的核心

## 1. 問題提起

周知の如く、中国語は孤立語であり各語彙には形態変化が存在しない。そして、その意思伝達には語順が大きな役割を持つ。例えば、以下の如く2つの単語や語句を並べた際、統語関係や意味関係<sup>(1)</sup>にも変化を伴うこと

---

(1) 「意味関係（“语义关系”）」という表現を用いる場合、「動作者－動詞－受動

となる（以下、例(1)~(3)は陆俭明 2005：12 より引用）。

- (1) 眼睛大大的 [主述関係] ≠ 大大的眼睛 [連体修飾関係]  
(目がぱっちりしている<sup>(2)</sup>) (ぱっちりした目)
- (2) 吃饭了<sup>(3)</sup> [動目関係] ≠ 饭吃了 [主述関係]  
(ご飯を食べた) (ご飯は食べた)
- (3) 客人来了 [主述関係] ≠ 来客人了 [動目関係]  
([来る予定の] 客が来た) ([予定されてなかった] 客が来た)
- (4) 来早了 [動補関係] ≠ 早来了 [連用修飾関係]  
([結果として] 来るのが早かった) ([意図的に] 早めに来た)

以上、二つの単語（それぞれ“吃”[食べる]と“饭”[ご飯]，“客人”[客]と“来”[来る]，“来”[来る]と“早”[早い]）が異なることで文法関係、意味関係にずれの生じることが分かる<sup>(4)</sup>。

中国語の基本語順は一般的に SVO であると認識されている<sup>(5)</sup>。更に VO 語順の使用頻度が OV 語順より高い点に対する指摘も見られる<sup>(6)</sup>。教育の現場や教材においても通常単純な文型を SVO と定めた上で解説が成され

---

者」のように述語動詞を巡る意味役割との関係で用いられることも少なくない。本稿では主に「異なる成分同士の日訳関係」という意味合いで用いる。

- (2) 本校の日本語訳について、筆者によるものは（ ）で示している。引用文献のものは〔 〕で記している。
- (3) 他に「食事をする状況になった／ご飯ですよ」の意味を持つ。
- (4) 更には語順が同じだとしても、構造や意味が一定の関係になるとは限らない。例えば以下の例は何れも「動詞＋名詞」の組み合わせであるが、名詞と動詞の何れにアクセントを置くかによって“述賓关系”（動目関係）と“‘定一中’偏正关系”（連体修飾構造）と構造に変化がもたらされる。例①“学习文件”（文献を学習する／学習文献），例②“进口设备”（設備を輸入する／輸入設備），例③“出租汽车”（自動車をレンタルする／レンタルする車→タクシー）。（陆俭明 2005：14）
- (5) 张谊生（2013）
- (6) 储泽祥 王艳（2016）

る<sup>(7)</sup>。そして、以下のような単純な SVO タイプの文が提示されてくる（例（5）（6）は平山（2012）より引用<sup>(8)</sup>）。

（5） 我吃面包。（私はパンを食べます）

（6） 我是日本人。（わたしは日本人です）

この点は、第一外国語として英語を学んできた大多数の日本人話者にとってさほど違和感を覚える内容でないだろう。一方中国語 SVO 語順をとる言語と一言で述べても、全ての語順が英語に似通ってくるわけではない。当然、英語の知識をそのまま中国語の語順理解や語順整理に当てはめられるわけでない。

例えば、その語順の特徴が日本語に類似する部分は、日本人母語話者としての言語背景が手がかりになる（例（7）-（9）は平山 2008 より引用）

（7） 我们晚上去看电影。（私達は夕方映画を見に行きます）

晚上我们去看电影。（夕方私達は映画を見に行きます）

（8） 看电视的孩子〔テレビを見ている子ども〕

（9） 我们五点在车站见面。（私達は5時に駅で会います）

上の例において、中国語が日本語と類似の語順的振舞を呈する。（7）は主語と動作発生時点の語順である。通常動作発生の時点は主語の後に置か

---

（7） 教材の例を挙げると枚挙にいとまがないが、文法書では丸尾（2010）、瀬戸口（2003）、語順を中心に扱った学習書を挙げられれば林松濤（2011）、林松濤王怡韡（2013）、陸偉榮（2016）、平山（2012, 2017a, 2017b）等何れも基本語順を SVO として議論を進めている。また、管見の限り、SOV を基本語順として解説する教材は目にすることがない。

（8） 本稿の例文は、大部分は平山（2012, 2017a）を始め学習書や辞書から引用している。一部出典の記されていない例が含まれている。それらは筆者による作例である。

れるが、文頭に置くことも可となる<sup>(9)</sup>。(8)は連体修飾語の語順である。連体修飾語が名詞性のもの、動作性のものであろうと“的”を後続させ“-的”という形で前方から修飾する。英語の如く、関係代名詞“wh-”を用いた表現に気を使う必要もない。(9)について「ある場所で」という部分を見れば、“前置詞‘在’+場所”と真逆の語順になる。一方前置詞フレーズ全体に視野を広げてみると、日本語同様、連用修飾語として前から修飾する点で一致している。この点、日本人話者の言語背景から判断すると、別段不思議なものとは言えないだろう。そうは言うものの、これらは言語類型論から見る語順傾向の普遍性から見る時、SVO語順、そして前置詞を用いる言語としては異色の特色を放つことになる<sup>(10)</sup>。更には、以下の語順は通常日本人学習者の言語背景からは見出しにくい。この点は、以下のような誤用例の算出とも関連性を持つことが推測される。

(10) \*老师走进来教室了。〔老师走进教室来了。〕(先生は教室に入ってきました)

(11) \*我们学过汉语两年〔→我们学过两年汉语〕。(私達は2年間中国語を学んだことがある)

(12) \*我睡觉了八个小时〔→我睡了八个小时觉〕。(私達は8時間眠った)

(13) \*他给妈妈打了电话三次〔→他给妈妈打了三次电话〕。(彼はお母さんに3度電話をかけました)

(10)は方向補語“来/去”と場所目的語の位置を巡る誤用である。場所目的語“来/去”の前に置かれる。(11)(12)は目的語と時量補語を巡

---

(9) 但し全てのパターンに入れ替えが完全に可能というわけではない。例えば時間を表す語句に“什么时候”を用いた場合、主語の前に置くと成立度が危ぶまれることになる。(a)“你什么时候来?”(あなたはいつ来ますか)(b)“?什么时候你来?”(いつあなたは来ますか)

(10) 刘丹青(2003:37,315-319),リンゼイJ.ウェイリー著 大堀他訳(2006:30),Greenberg著 陆丙甫等译(1984)。

る誤用である。時量補語は通常目的語より前に置かれる。杨德峰（2008）の指摘の如く英語からの影響は至極理解しやすい<sup>(11)</sup>。(13)は目的語と動量補語を巡る誤用である。動量補語は通常目的語より前に置かれる。

以上、中国語にも独自の語順の特徴があることを眺めてみた。中国語全体像の解明において語順体系に対する的確で且つ簡明な整理や分析を成すことの重要性は今更強調すべき点でもない。語順については教材や参考書（林松濤 2011；林松濤 王怡韡 2013；陸偉榮 2016；平山 2012, 2017a, 2017b）、研究論文（戴浩一 1988；刘丹青 2003；陆丙甫 2008a 等）においても多くの考察が成されている。学習書は通常学習者（日本で出版されるものに関しては日本人、多くは初級者）にとっての利便性が念頭に置かれていることは推測に難くない。一つ一つの説明は初学者にとって分かり易い部分もあるが、確固たる理論的背景と根拠に基づくものか見出しづらいものも少なくない。一方、研究論文において関心事項は通常「中国語の言語構造の正確な記述」という点にある。よって、中国語以外の言語の母語話者にとって中国語という語順体系を理解する上で最も合理的なものであるかは必ずしも考慮されているとは限らない。但し、外国人の立場から中国語文法を見つめる時理論的正しさに加え、「使用する側の立場から見た利便性」という点も必要不可欠な要素と感じざるを得ない。この点は、中国語教育、言語情報処理、コーパス開発、機械翻訳等関連の研究各種分野の発展において重要な役割を担うことになる。

本稿では、以上のコンセプトのもと既存の中国語文法の枠組を軸としながらも、「一人の日本人話者の立場から簡明で筋道が明確な整理を」、換言すれば「日本人話者の言語背景を有効活用しながら」という角度を織り込みながら、中国語の語順体系について考察を加えていく。

---

(11) 対応する英文を杨德峰（2008）から挙げておく：We have learned Chinese for two years./He called his mother three times./I have slept for eight hours.

## 2. 基本語順 SVO とコーティング関係

SVO を中心として体系的成立という点については筆者の中で語順教材の作成や語順をテーマとした語学講座を担当する中で一貫したテーマとして取り組んできた。この点は、平山（2012, 2017a, 2017b）において体系化を試みている。分析に際しては、SVO という骨子（核心）に対して、如何に肉付け（コーティング）されてきたかを明確に示すことが道標となるという考えで纏めてきた。その過程において、基本語順とコーティング関係を明確化する際困難かつ明確化の必要性を感じさせた点が幾つか生じてきた。以下に、その具体的な内容を挙げておく。

### （一） 核心としての SVO の確立

まずは核心、骨子という部分の基本語順についてである。日本人の中でも SVO に対する概念が備わっているとすると、その意味関係に関して中国語話者の SVO に対するイメージ（主に「S は O を V する」）と必ずしも一致しているとは限らない。中国語においては日本人の SVO からイメージが湧きにくい動目構造（例えば“吃食堂”（食堂で食べる）や、“开玩笑”（からかう）、“游泳”（泳ぐ）と言った離合詞のように）が多数存在する。更には平山（2008, 2009）でも言及したが、「～が」という動作者が目的語の位置に置かれる存在文に関しても日本語母語話者からすると、違和感を覚えるところである。一方、中国人話者の立場から見れば“有”構文とさして変わりのないという指摘が見られる。言語記述の正確さと日本人の言語背景を加味したところで、どの部分で核心としての枠組みを括っていくか。

## （二）基本構造 SVO の核心的意義づけ

基本語順とコーティングの関係を描写する上で、核心としての意義づけはいかなる点にあるのか。多くは、意味的核心と捉えることができる。

(14) 他明天回老家。(彼は明日実家に戻ります)《平山 2012》

⇒他回老家。(彼は実家に戻ります)

(15) 我也去北京。(私も北京に行きます；私は北京にも行きます)《平山 2012》

⇒我去北京。(私は北京に行きます)

一方で、次の如くコーティング成分を取り去ることで文意は全く逆のものとなる（文意的核心として捉えられない事例に関して、詳細は 3.1 節を参照）。

(16) 她不吃面包。(彼女はパンを食べません)《平山 2012》

≠她吃面包。(彼女はパンを食べる)

このような現象を加味した上で形式の関連性を以下に定めるのか。

## （三）SVO に対するコーティング関係の確立

SVO 語順に対するコーティング関係を如何に法則的に、且つ合理的な説明を加えて行くことができるか。

(17) 他明天回老家。(彼は明日実家に戻ります) →連用修飾語

(18) 汤有点儿咸。(スープはちよびり塩辛い) →連用修飾語

(19) 我听错了你的话。(彼はあなたの話を聞き間違えました) →結果補語

(20) 我给你一个礼物。(私はあなたにプレゼントを贈ります) →二重目的語

(21) 我们点菜吃。(私たちは料理を注文して食べます) →連動文

(22) 我回东京去。(私は東京に帰ります) →“来 / 去”のような関係を如何に扱うか

(23) 沙发上躺着一只猫。(ソファーに猫が1匹横になっています) →

### 派生的な VO 関係

上の例を挙げれば、(17)(18)は連用修飾語を用いた例である。VO に対する前方コーティングと見ることができる。(19)は“听你的话”という VO 関係について V (“听”) に対してコーティングの施された形式と考えられる。(20)は VO<sub>1</sub>O<sub>2</sub> という二重目的語形式、(21)で示した連動文は VO に別の動作が後続していく文である。言わば VO に対する後方からのコーティングと言えそうである。(22)では方向補語“去”を用いたと言われる例である。教学の場では一般的に“回去”の中に場所目的語“家”が挿入された形として教えられる。一方で連動式とし“去”は VO (ここでは“回家”) と構造的に切れているとする考え方もある(楊徳峰 2005; 高橋 2006, 2009)。(23)は存在文の例である。このタイプの文は動作者(「～が」)という成分が目的語の位置に置かれる。これを如何に扱っていくか。

以下紙幅の都合上、本稿だけでこれらを逐一議論するのは不可能である。次章以降では(一)(二)及び(三)においては VO に対する前方コーティングという点について整理を試みる。

## 3. 中国語の構造分析

第 1 章で述べた通り、本稿では SVO を基本語順として分析を進める。その第一歩として構造分析について言及したい。語順構造は統語構造の中心的な位置を占めるものとなる。また、中国語の基本語順を SVO とする場合、基本とする範囲をどの点に設定するか、この点も分析の利便性や効率性に大きく作用する。この点も、注意を払っていく必要がある。本章では、構造分析について代表的なものを取り上げ検証を行う。

### 3.1 “句子成分分析”（文成分分析<sup>(12)</sup>）

文成分分析法では、核心部分を定めた上で枝葉として他の文法成分がどのように付加されたかを分析するものである。この部分に関しては陆俭明（1993a, 1993b, 2005）において利点と局限に対して詳しい指摘があるので、以下に纏めておきたい。詳しい手順は次の通りになる（陆俭明 2005 参照）。

- （1） 分析的对象是单句。（分析对象は单文）
- （2） 认定一个句子有六大成分——主语，述语（即谓语），宾语，补足语，形容词性附加语（即今天一般所说的定语），副词性附加语（即今天一般所说的状语和补语），这六个句子成分分为三个级别：主语，述语（即谓语）是主要成分，宾语，补足语是连带成分，形容词性附加语，副词性附加语是附加成分。（一つの文につき六大文成分——主語，述語，目的語，補足語，形容詞性付加語（現在で言う連体修飾語），副詞性付加語（現在で言う連用修飾語と補語）を認定。これら六つの成分を三つの等級に分類。主語，述語を主要成分とし，目的語，補足語が連帯成分となる。更に，形容詞性付加語と副詞性付加語が付加成分となる）
- （3） 作句子成分的原则上只能是词。（文成分となるのは原則的に単語のみ）
- （4） 分析时，先一举找出全句的中心词作为主语和述语（即谓语），让其他成分分别依附于它们。（分析の際，まず文全体で中心となる語を探し出し主語，述語とする。その他の成分を両者に付加されるものとする）

---

(12) “句子成分分析法”に対する「文成分分析法」のいう日本語訳は筆者によるものである。

- (5) 分析手続は、先看清全句の中心詞を主語と述語（即謂語）、再看述語（即謂語）是哪一種動詞、決定它後面有無連帶成分賓語或補足語、最後指出句中所有附加成分——形容詞性附加語和副詞性附加語。（分析手続きは、まず文全体で中心となる語をはっきり主語、述語として示す。その後述語はどの動詞かを観察し、後ろに連帶成分である目的語或いは補足語があるかを判断し、最後に全ての付加成分——形容詞性付加語と副詞性付加語を指し示す。）

即ち、文成分分析法では“主語＋述語（動詞・形容詞）”をベースとして、目的語もその外枠に加えられた成文として分析していることになる。

具体例として陸検明（1993a, 1993b）から（这些）工人 [立刻] 修 〈好〉了（一座）桥。（これらの労働者はすぐに一つの橋をしっかりと修理した）という文を用いた説明が成されている（      は主語、      は述語、      は目的語、（ ）は連体修飾語<sup>(13)</sup>、〔 〕は連用修飾語<sup>(14)</sup>、〈 〉は補語）。

(24)

- (a) 这些 工人 立刻 修 好了一座桥。  
(b) 这些 工人 立刻 修 好了一座桥。  
(c) (这些) 工人 [立刻] 修 〈好〉了(一座) 桥。

分析の際、まず文全体の主要部分（主語と述語）を探し出す（上の例では“工人修”（労働者が修理する））。次の段階として、述語がどの動詞かを見極めた上で、副次的成分として目的語の有無を確認することとなる（上の例では“工人修桥”（労働者が橋を修理する）という構造が確認され

---

(13) この部分の記述は3.1節の本文中で取り上げた(2)の定義からすれば形容詞性付加語とすべきであろうが、陸検明（1993a, 1993b）において“定语”と解説されていたのに合わせて、本稿でも「連体修飾語」という用語を用いている。

(14) この部分の記述は3.1節の本文中で取り上げた(2)の定義からすれば副詞性付加語とすべきであろうが、陸検明（1993a, 1993b）において“状語”と解説されていたのに合わせて、本稿でも「連用修飾語」という用語を用いている。

る)。最後に付加成分として連体修飾語（“一座”）や連用修飾語（“立刻”）の存在を突き止める。

文成分分析法は“中心詞分析法”（中心語分析法）という別称に示される通り文の核心部分を捉える上で効力を発揮する。この点は、中国語の文構造を把握する上でも、我々日本人が外国語としての中国語を理解するにおいても利するところは少なくない。

更に陆俭明（2005）で文成分分析法は文の核心を把握することにたけた分析法であるので、次のような長い文に遭遇しても文意を読み取る上で役立つ点も指摘されている（(25)は陆俭明 2005：59より引用。下線は筆者によるもの）。

(25) 我国首次升空的（“神州－3号”）模拟载人飞船经过 264 个小时在太空运行之后按照原先预定的时间安全，准确地返回原先计算好的我国西北地区的地面。（我が国で初めて打ち上げられた「神州－3号」模擬有人飛行船は 264 時間宇宙を運行した後先に定めた時間通りに安全，正確にもともと計画しておいた我が国の西北地区の地上に戻りました）

例えば、この例においても基本的な内容が“‘神州－3号’飞船——返回——地面”（「神州－3号」という飛行船が地上に戻った）であることが分かる。

一方で、陆俭明（1993a, 1993b, 2005）では文成分分析法の局限に関しても言及がある。言及された中での代表部分（本稿のテーマとする語順体系と関連する内容）として、以下の要素を挙げることができる（例文(26)から(33)は何れも陆俭明（1993a, 2005：60）から引用）。

#### 【主語＋述語（＋目的語）の形が不成立】

(26) 他贪图安逸。（彼は安逸をむさぼっている）→ \*他贪图

(27) 封建思想必须清除。（封建思想は取り除くべきである）→ \*思想

### 清除

- (28) 我们学习好的品德。(私達は良い人徳を学びます) → ? 我们学  
习品德

上の例において(26)は目的語“安逸”を削除することにより、文が不成立となる。(27)においては、“必須”を削除することで“思想”が動作対象としての読みが困難となる。更には、“封建”という連体修飾語が取り去られると排除されるべき“思想”の特性が特定できず、文としても成立に困難を極めることとなる。(28)においても、“品德”の具体的な内容を示す連体修飾語“好的”を削除すると文として不自然となる。

### 【主語+述語(+目的語)で文意が変化】

- (29) 我弟弟不喜欢京剧(私の弟は京劇が好きでない) ≠ 弟弟喜欢(弟は好きだ)
- (30) 我们都听不懂。(私達はみんな聞いて分かりません) ≠ 我们听  
(私達は聞く) ≠ 我们懂(私達は分かる)
- (31) 他死了爷爷。(彼はおじいさんを亡くした) ≠ 他死了(彼は死んだ)
- (32) 北京队大败安徽队(北京チームが安徽チームを大いに打ち負かす) ≠ 北京队败(北京チームが負ける)
- (33) 不合格的党员清除了。(不適格な党員は取り除くべきである) ≠ 党员清除(党員が取り除く)

上に挙げた(29)から(31)は、文成分の削除により文意が変わる。(29)では否定副詞“不”を削除することで、肯定と否定が全く逆になる。(30)では可能補語を構成する“不”を削除することで「～できない」という核心的意義が消失されることになる。(31)は目的語“爷爷”を削除した場合、「亡くなる」という動作の主体が“他爷爷”(彼のおじいさん)から“他”(彼)へと変化する。(32)では“安徽队”という目的語を削除することで、

“北京队”が勝者から敗者へと変わる。(33)では連体修飾語“不合格的”を取り除くことで、“党员”が“清除”(取り除く)という動作の受け手から主体へと変化する。

以上、文成分分析に基づく核心の抽出では困難が生じることを指摘した。ここで一点核心という点について言及すれば、同分析法においては文構造における核心のみならず意味的核心と部分に焦点を置いた分析法と言える。意味の点まで考慮した試みは評価に値する内容であるが、それが故に弊害を招いた点が見て取れる。

### 3.2 “层次分析”（階層分析）

階層分析は、その名の如く文構造の階層性を考慮に入れた分析法である。一つの文を構造毎に二分し、各階層における直接成分同士の関係性を示していく。階層分析の特徴は「どの部分で構造の切れ目が入るか」を示す“切分”，そして「各階層における前後両者がいかなる文法関係にあるか」を示す“定性”という部分が特徴となる（陆俭明（1993a, 1993b, 2005））。

“层次分析”（階層分析）を用いた場合、先に挙げた“句子成分分析法”における核心語順を描写する上での困難を解消することができる。例えば、例(26)から(28)及び(29)から(33)においても、何れも第一階層が“主谓短语”（主述フレーズ）として分析することができる。

- |      |       |             |               |
|------|-------|-------------|---------------|
| (34) | (26') | <u>他</u>    | <u>贪图安逸</u>   |
|      | (27') | <u>封建思想</u> | <u>必须清除</u>   |
|      | (28') | <u>我们</u>   | <u>学习好的品德</u> |
|      |       | 主           | 述             |

- |       |     |            |              |
|-------|-----|------------|--------------|
| (29') | (a) | <u>我弟弟</u> | <u>不喜欢京剧</u> |
|       | (b) | <u>弟弟</u>  | <u>喜欢</u>    |

- (30') (a) 我们 都听不懂。  
(b) 我们 听  
(c) 我们 懂
- (31') (a) 他 死了爷爷  
(b) 他 死了
- (32') (a) 北京队 大败安徽队  
(b) 北京队 败
- (33') (a) 不合格的党员 清除了  
(b) 党员 清除

### 主 述

以上、「文成分分析法」では矛盾が生じる内容を階層分析では主述フレーズとして纏めることができる。更に、主述フレーズにおける「主語」（主語）と「谓语」（述語）は「陳述・説明の対象と陳述・説明の内容」という関係を表す（朱德熙 1982：17；北京大学中文系现代汉语教研室编 2004：307；興水・島田 2009：21；三宅 2012：81 等）。上に挙げた例(26')から(33')では述語は「動詞」「形容詞」「動目フレーズ」「動補フレーズ」と様々である。また主語においても動作者はもちろんのこと受動者となることもあり得る（例(27'), (33' a)）。何れのパターンも、先述の「陳述・説明の対象と陳述・説明の内容」という関係性で網羅することが可能となる<sup>(15)</sup>。

上述の如く、階層分析では中国語の文構造を正確に描写する点で長けている。但し、大多数の文構造の大枠を主述フレーズとして一括り纏めることは正確さを有していても実用性や利便性を欠いたものとなる（陆丙甫 2008b：130）。階層分析は各階層における構造関係を記述するものであり、

---

(15) 主語の定義について「特に厳密な資格はなく、説明の対象」と規定する解説は中国語のみならず、大西（2011：50）の如く英文法書でも見ることができる。

異なる階層の語句動詞の意味関係を記述する能力を有していない。例えば先に主語は動作者のみならず受動者等が来ることもある点を指摘したが、階層分析ではこのような点を明確に示す術を持たない。更には、以下のようにならぬ文が無尽蔵に拡張される形式に対しては、その分析に困難を極める。

- (35) ……张三告诉我 李四认为 王五说过 赵六主张……（…張三は私に李四は王五が趙六は……と話したと持っていると言って、…）  
（陸丙甫 2008b : 130）

例(35)のように延々と続く文の一部を抽出した場合、核心を捉える上では大いに不向きとなる。

### 3.3 SVO を骨子とした語順分析

以上，“句子成分分析”（文成分分析），“层次分析”（階層分析）の双方を概観すると、前者は文構造の核心部分の抽出、言わば簡明な描写という部分で利点を発揮する。一方後者は、正確な文構造を記述する上で効力を発揮するが構造的、そして意味的核心という部分を説明する機能を有していない分、簡明さや利便性という部分に関しては劣ることになる。利便性は、外国人の立場から中国語を理解する上では特に重要な意味を持つ。概して、言語分析において、文成分分析、階層分析の何れも一長一短を持ち、正確さと利便性の何れかを欠いている。逆に言えば正確な記述と利便性という双方の需要を満たす分析法が必要とされる。

利便性は、中国語 SVO の語順的特徴の整理と記述を目的とする本稿の立場からしても重要な要素となる。その点を考えると、SVO 語順をベースとしたコーティング関係が合理的に説明できれば理想である。コンセプトは、文成分分析法と類似した観点になるかと思われるが、文成分分析法ではコーティング関係に関して厳密さに欠いていた嫌いがある。コーティングという言葉を用いるならば、同分析法では「主語＋述語」に様々なコーティングが施されたように捉えているとうことになるが、その弊害に

については既に言及した通りである。

コーティング関係について考察する場合、語順階層に適切な描写という部分が必要となる。大まかな語順階層という点について、张国宪・卢健（2013：144）においては、中国語の大まかな語順は述語動詞を中心に次のような統語位置を占めるといふ指摘がある。

(36)



张国宪・卢健（2013）において、“谓语动词”（述語動詞）を中心にして“状语”（連用修飾語）と“补语”（補語），“主语”（主語）と“宾语”（目的語）がそれぞれペアを成して、一方で“定语”（連体修飾語）は二種の統語的位置を占めることを指摘している。即ち、連体修飾語は主語、目的語の中で体现されるわけであるから、主語、述語、目的語等と同一線上に並べられることができないものと言える。

文構造の述語部分の分析から“定语”（連体修飾語）を排除すべきという主張は陆丙甫（2008a, 2008b）にも見られる。また、张国宪・卢健（2013）においては、主語と目的語をペアと成すと言っても述語動詞との緊密性では大きく隔たりがある。この点を踏まえ陆丙甫（2008a：246, 2008b：131）では、“直系成分分析”（直系成分分析<sup>(16)</sup>）が提示されている。当分析では語順類型論の“语义靠近原理”（意味接近原則）に基づき語順階層を“轨层结构”（軌層構造）として示していく。

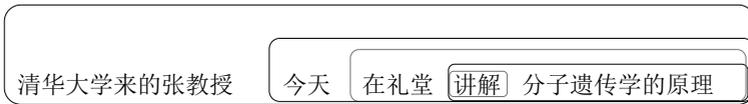
この原則では世界中のあらゆる言語は、述語動詞を基層として、連用修

---

(16) “直系成分分析”に対する「直系成分分析」は筆者による日本語訳である。

飾語として外層から内層へ“時位（時間的位置：T），時量（時間量：D），处所（場所：L），工具（道具：I），方式（方式：M）”という順序で統語位置の段階性を表すとある。陆丙甫（2008a, 2008b）で“清华大学来的张教授今天在礼堂讲解分子遗传学的原理”（清华大学からいらした張教授は今日講堂で分子遺伝学の原理を講義されます）という例を挙げ論証が成されている。

(37)



上の例に見る時述語部分において連用修飾語部分を比べると“今天”（T），“在礼堂”（L）という語順で並んでおり，意味接近原則に準じた統語位置を呈していることになる<sup>(17)</sup>。

ここで陆丙甫（2008a, 2008b）の直系成分分析の特徴について述べれば，次の通りに纏められる。

- (a) 連体修飾語の扱い方。連体修飾語を語順分析の平面から外し，外枠の構造として扱う。
- (b) 基本語順 SVO と連用修飾語による前方コーティングの関係性に対し詳細な記述が行われている。

(17) 陆丙甫（2008a, 2008b）から意味接近原則による語順原理を示す例として，更に以下の例（a. は中国語，b. 英語）を引用しておく。a. (他) [上星期 [[在实验室 [用计算机 [连续地 [工作了]]]] 六天]]. b. (He) [##### [worked] continually] with computers] in the lab] for six days] last week]. 両者の例でも，語順原則の通りに外層から内層へ「上星期 / last week（時間位置：T），六天 / for six days（時間量：D），在实验室 / in the lab（場所：L），用计算机 / with computers（道具：I），连续地 / continually（方式：M）」と配列された形となっている。

以上、語順類型論の観点から SVO をベースとした VO に対する外層から内層へのコーティング原則を綿密に描写したものとなる。本稿の主旨で SVO 語順を核心としたコーティング解明という点からすれば、第一段階として各連用修飾語の語順傾向という細かい点までを視野に入れたわけではないが、上のような軌層図を見れば「主語 + (連用修飾語 (V + O))」という構造関係を容易に読み取ることができる。例えば、(37) を例にとると“清华大学来的张教授讲解分子遗传学的原理”(清华大学から来た張教授が分子遺伝学を講義する)を核として、各種連用修飾語が枝葉として付加されたことが読み取れる。そして、“清华大学来的张教授”“遗传学的原理”のように連体修飾構造は語順モデルの大枠から外れている。階層分析では S と VO という異なる階層のものを同一平面上に並びた意味的な核心を瞬時に読み取ることができる。よって、この分析法では「主語 + 述語」という階層構造も把握しやすいし連用修飾語が (SVO 全体ではなく) VO を修飾している、という点も見出しやすい。更には「主語 + 動詞 + 目的語 (SVO)」という基礎的意味を容易に読み取ることができる。この点は、本稿で意図とする中国語 SVO 語順をベースとした語順的特徴を捉える目的から見ても、有効な分析法である。

但し、一方で、陆丙甫 (2008a, 2008b) では語順類型論的な観点から一部分の構文や文法現象が論じられているに過ぎない。VO と連用修飾語以外の軌層関係について言及が成されていない。中国語の言語事実を眺めてみると、コーティング関係は VO に対するもの、或いは前方からのものに限らない<sup>(18)</sup>。更には第 2 章で言及した本稿の対象とする (一) 核心としての SVO の意味関係の確立、(二) 基本構造 SVO の核心的意義づけ、という点についても依然明確な分析がなされていない。(二) について、陆丙甫 (2008: 25) においても、肯定と否定で意味が逆転するという現象

---

(18) この点は第 2 章で示した通り、今後の考察対象とする。

（例。“人们的心情很不平静”（人々の心は穏やかでない）と“心情平静”（心が穏やかだ））に対する言及は成されているが、このように否定副詞を付加した否定文に対して、如何なる次元で核心を成しているかという点は正面からの議論が見られない。第4章、第5章ではそれぞれの点に焦点を当てて整理していく。

#### 4. 基本語順

本章では第2章で提示した問題点（一）核心としてのSVO、という点について整理する。

##### 4.1 形容詞述語文

まずは形容詞述語文の基礎となる簡素な体系である<sup>(19)</sup>。日本語としては「SはAだ」と表現される。また、英語にも“S is Adv（例. She is beautiful）”という類似した形式の構文が存在する。中国語における簡素な形容詞述語分は、述語の核心部分を性質形容詞や数量形容詞が担う<sup>(20)</sup>。

---

(19) 形容詞述語文は形容詞が述語の核を占める文である。よって、“S+A”をベースとした各種表現が存在する（例。“风大极了”（風が非常に強い），“天阴上来了”（空が曇ってきた））。これらのタイプでは“风大”（風が強い），“天阴”（空が曇っている）という表現をベースに、形容詞“大”“阴”の後に、それぞれ程度補語“极了”と複合方向補語“上来”が付加された形となる。このように基本をベースに他成分の付加されたタイプは、別稿に譲る。

(20) 形容詞には事物の属性を表す状態形容詞に対して、事物の具体的な状況や状態を表す状態形容詞が存在する。状態形容詞は性質形容詞形容詞の重ね型〔慢慢儿（ゆっくりだ）；高高兴兴（嬉しそうだ）〕や性質形容詞に語尾の付着した形式〔胖乎乎（まるまる太っている）；凉冰冰（ひんやりしている）〕等が存在する。以上、状態形容詞は性質形容詞にコーティングの施された形式と考える。

【性質形容詞】

(38) 这个很大。(これは大きい)《平山 2017a》

(39) 他很认真。(彼はまじめです)《平山 2017a》

【数量形容詞】

(40) 人很多(人が多い)《商務印書館 小学館共編 2016 : 405》

(41) 公园里人很少(公園の中は人が少ない)《相原茂 2010 : 1406》

上に(38)(39)に性質形容詞“大”“认真”，(40)(41)に数量形容詞“多”“少”の例を取り上げた<sup>(21)</sup>。特に何かの程度を付加しない「SはAだ」という意味を表したい場合，形容詞の前には“很”が付加されることとなる<sup>(22)</sup>。

#### 4.2 動詞述語文

次に，動詞述語文である。本節では中国語 SVO の基本モデルを考察したい。3.2 節でも触れた通り，中国語において主語は陳述の対象としての働きを持ち，動作者と限るものではない。但し，一方で動作者が主語の典型になるのも事実である。また 3.3 節でも言及したが，コーティングと直接関わってくるのは多くが動詞 V の部分となる。よって，VO の意味関係を軸に議論したい。以下，中国語の SVO モデルと，日本人の SVO 語感を総合して纏めていく。

---

(21) 但し数量形容詞は他の機能について異なる振舞いが見られる。例えば連体修飾語に“很”や“不”を用いる場合，性質形容詞は通常“很 / 不 A 的 N”をとり，形容詞の後に“的”が必要となる〔例，很认真的学生（とてもまじめな学生）／不好的习惯（良くない習慣）〕。一方数量形容詞は“很多人 / 不少人”（多くの人）のように，形容詞の後に“的”を必要としない。

(22) 厳密に言えば“很”も程度副詞の一種となるので，構造的には“SA”の述語形容詞に“很”の付加された形となる。但し，本文中でも触れた通り，形容詞のみで述語を形成した場合対比，比較の意味が加わった有標形式となる。よって，本稿では“S 很 A”を基本形式として扱った。

#### 4.2.1 VO 動詞述語文

VO が述語として用いられた動詞述語文 SVO における VO の意味関係は大部分が「O を V する」「O に V する」という 2 種類に対応する。他の意味関係について対応する動詞の数は限られるので、個別の動詞として認識する形で整理できよう（平山 2008）。日本人学習者の言語背景で日本語訳に対するスキーマの定着したパターンであるほど、日本人話者にとっても中国語 SVO を日本語に訳す際、違和感なく変換できることが予想される。以下、例を観察する。

##### [S は O を V する] タイプ

この種の意味関係は動作動詞、状態動詞と目にすることができる。まずは、以下の例を挙げておく。

(42) 我喝冰咖啡。(私はアイスコーヒーを飲む)《平山 2012》

(43) 她写信。(彼女は手紙を書く)

上に挙げた(42)(43)の動作動詞が用いられている。動詞との関係性から言えば(42)は受動者目的語、(43)は結果目的語とその役割は異なる。但し、日本で訳出する SVO の意味関係としては何れも「-を」という同様の関係性になる。

更には次の例である。

(44) 他知道这件事。(彼はこの事を知っています)《商務印書館 小学館共編 2016:2024》

(45) 我相信你。(私はあなたを信じています)《孟琮等 1999》

上に挙げた“知道”(知っている)、“相信”(信じている)は心理活動を表す。また、文自体も心理状態を表している。更には、次の例である。

(46) 我很喜欢历史。(私は歴史を好んでいる；私は歴史が好きだ)《商務印書館 小学館共編 2016：1676》

(47) 我讨厌这个地方的风沙。(私はこの土地の砂嵐を嫌っている；私

はこの土地の砂嵐が嫌いだ》《孟琮等 1999》

上に挙げた“喜欢”（好む；好きである），“讨厌”（嫌う；嫌いだ）も心理状態を表すものである。このタイプは日本語に訳す場合、「SはOをVする」以外にも「SはOがVだ」と「が格」を用いて訳出することも可能、更には多くの場合この形で訳出する方が自然な形となる。何れにしても、英語にも“like”“hate”のような類似した動詞が存在する。よって、日本人にとって大きな抵抗感が存在しないであろうことは推測される。

#### [SはOにVする]

まずは該当する例を挙げておく。

(48) 她去图书馆。(彼女は図書館に行く)《平山 2012》

(49) 姐姐来东京。(姉が東京に来る)

(50) 我给你。(私はあなたにあげます)

(51) 我告诉你。(私があなたに話します)

上に挙げた VO 関係において目的語の役割を見ると、(48)の“图书馆”（図書館）、(49)の“东京”（東京）は着点としての場所を表す。(50)(51)の“你”は動作対象となる人を表す。更には英語にも対応する表現として“go to + 場所”“come to + 場所”，“give”“tell”等が存在しており、SVO の形としては受容しやすいことが推測される<sup>(23)</sup>。

#### 4.2.2 “是”を用いた動詞述語文

このタイプの文は，“是”を用いた動詞述語文では、「SはOだ（S = O）」という意味関係を表す。英語では言えば be 動詞を用いた構文と近い

---

(23) 周智の如く，“给”“告诉”は“V + O<sub>1</sub> [人] + O<sub>2</sub> [事物]”（O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>をVする）という二重目的語構文を形成する〔例. 我给你一本书（私はあなたに本を一冊あげる）／我告诉你一件事（私はあなたにある事を教える）〕。この点も英語に“give”“tell”を用いた二重目的語構文が存在することと類似している。

性格を持つ<sup>(24)</sup>。

(52) 我是日本人。(わたしは日本人です)《平山 2012》

(53) 他是公司职员。(彼は会社員です)《平山 2017a》

(54) 这是我的书。(これは私の本です)《平山 2017a》

上掲の例で言えば、それぞれ“我＝日本人”“他＝公司职员”“这＝我的书”という同値であることが示されている。

#### 4.2.3 “在”を用いた動詞述語文

“在”を用いた動詞述語文は存在を表す。このタイプの動詞述語文は“S [人/物]+ ‘在’+O [場所]” (S [人/モノ]はO [ある場所]にある/いる)という形で用いられる。存在を表す“有”構文と対比される際、「人/物」と「場所」の語順（動詞Vの前か後か、即ち主語Sに「人/物」が置かれ、目的語Oに「場所」が置かれる）という点が注意点として示される。

(55) 银行在邮局旁边。(銀行は郵便局の隣にあります)《平山 2012》

(56) 他在房间里。(彼は部屋の中にいます)《平山 2017a》

上掲の例では“银行”（銀行）という物，“他”という人がある場所〔それぞれ“邮局旁边”（郵便局の隣），“房间里”（部屋の中）〕に存在することが示されている。こちらの表現は英語の“S be (am/is/are) in +場所”が存在することからも、日本人話者にとっても容易に受容しやすいことが伺い知れる。

#### 4.2.4 “有”を用いた動詞述語文

次に“有”を用いたタイプである。周知の如く，“有”には「所有」と

(24) 英語の be 動詞と異なる用法も存在する。例えば教科書や文法書で取り上げられるものとして“是…的”を挙げることができる〔例、我是昨天来的（私は昨日来たのです）〕。

「存在」の二種の意味を持つ。まずは、所有を表すタイプを挙げておく。

(57) 我有电脑。(私はパソコンを持っている)《平山 2017a》

(58) 我有三十本小说。(私は小説を 30 冊持っている)《平山 2012》

(59) 他没有手机。(彼は携帯電話を持っていない)《平山 2017a》

存在を表すタイプは“S [所有者]+有/没(有) + O [被所有者]”(S [所有者]はO [被所有者]を持っている/持っていない)という語順で用いられる。それぞれ肯定の場合は“有”，否定の場合は“没 [有]”という動詞が用いられる。所有を表す“有”動詞述語文のVOの日訳関係においても、「OをVする」という優勢的な対訳が当てられる。英語にも，“have”を用いた語順表現は見慣れたものであろうから，“有/没(有)”を用いた動詞述語文の語順は日本人の英語学習でも容易に想像することができよう。

次に存在を表す表現である。このタイプの動詞述語文は“S [場所] + ‘有/没(有)’ + O [人/物]”[S [ある場所]にO [人/モノ]がある・いる/ない・いない]という形で用いられる。存在を表す“在”構文と対比される際、「人/物」と「場所」の語順(Vの前か後か、即ち主語Sに場所が置かれ、目的語Oに人や物が置かれる)という点が注意点として示される。また述語動詞には所有と同様に肯定の場合“有”，否定の場合“没 [有]”という動詞が用いられる。この点は日本語で存在の否定を表す場合も「ない」という語を用いる(「\*あらない」と表現しない)ことと類似している。

(60) 那儿有一家快餐店。(あそこに一軒のファストフード店があります)《平山 2012》

(61) 教室里有一个人。(教室には人が一人います)《平山 2012》

(62) 屋里没有空调。(部屋にはパソコンがありません)《平山 2017a》

上掲の例において(60)(61)は，“那儿”(あそこ)，“教室里”(教室の中)という場所における“一家快餐店”(一軒のファストフード店)，“一

個人”（一人の人）の存在が述べられている。一方（62）は，“屋里”（部屋の中）という場所における“空调”（エアコン）の存在が否定されている。

ここで「VO」の意味関係に目を向けると「OがVする」（主語を含めると「S [に] はOがVする」）となる。日本語の場合、通常「-が」は動作者の後に置かれる。よって、SVO 言語における目的語の位置は違和感を覚えやすいものとなりやすい。但し、英語学習で“there is”構文に触れている日本人学習者の言語背景を考えると、それほど難を覚えるものとは考えにくい<sup>(25)</sup>。

更には、所有と存在はリンクという点から言及すると、存在を表す“有”述語文における主語となる場所はある種の無生物領域と見ることができると。換言すれば広義の所有者として認識できる。また日本語でも所有を表す“有”は「SはOを持っている」以外にも、「SにはOがある」（例えば(60)(61)(62)は「私にはパソコンがある」「私には小説が30冊ある」「彼には携帯電話がない」）と訳出することもできる。後者で訳出した場合主語Sの場所的側面が浮き上がっていることが見て取れる。よって、孟琮等（1999）で次のように「所有」「存在」の“有”の目的語を何れも“受事”（受動者）として分類しているのは一理あることと言える。

(63) 所有：我有书（私は本を持っている；私には本がある）／有材料（材料を持っている；材料がある）／有气魄（气迫を持っている；气迫がある）／有力量（力を持っている；力がある）／有干劲（やる気を持っている；やる気がある）

(25) 存在を表す“有”の習得に関して“there is (are)”構文が参考になる点は先行研究でも指摘がある。例えば丸尾（2003：27）では、語順形式だけでなく目的語の性質（不特定性）の説明という部分にも言及が成されている〔例。\*There is my book on the desk. → There is a book on the desk. / \*一本书在桌子上。→ 桌子上有一本书。〕。

存在：有人（人がいる<sup>(26)</sup>）／有水（水がある）／有魚（魚がいる）  
／有樹（木がある）

更には、日本人学習者にとって英語学習で馴染みの多い“have”に関しても、「存在」「所有」の意味を有するし、英文法の解説でも目にすることもできる。一般的な市販の英文法書（高梨 1970：350）から例を挙げておく。

- (64) The boy has a ball in his hand. [少年は手にボールを持っている]  
My room has only two windows. [私の部屋には窓が2つしかない]

#### 4.2.5 各種 VO の意味関係

本章では、意味関係から見た中国語の基本的な語順枠組みを論じてきた。そして、日本人学習者の動詞述語文 SVO 語順に対して有する言語背景からくる知識をもとに、4.2.1 節から 4.2.4 節の形に纏めてみた。その中で VO の意味関係として「O を V する」「O に V する」が一番多く目にする意味関係であることを示した。この点は、日本人の SVO に対する認識からしてもさして真新しいことでないかもしれない。但し、用例資料を基に少し補強を入れておきたい。

意味役割という点から見ると、中国語の目的語は動詞に対して受動者〔“紅茶”（紅茶を飲む）〕、対象〔“給你”（あなたに与える）〕、結果〔“做菜”（料理を作る）〕、場所〔“進教室”（教室に入る）〕、動作者〔“下雪”（雪が降る）〕等多くの関係性を呈す。分類数に関しては各種文献によって差異が見られる。詳細な分類を行っているものとして、例えば孟琮等（1999）では、以下の 14 種類の項目を設定している。それぞれ、挙げられた例と日本語訳を付しておく（以下に挙げた①から⑭の日本語訳において

---

(26) “有人”は他に「人がいる」という統語の意味から転じて、語用論の意味として「（席などが）空いている」という意味で使われることも少なくない：这儿有人吗？（ここ空いていますか）

「Oを」「Oに」以外の意味関係で訳出された部分は助詞を斜体網掛けとして示している)<sup>(27)</sup>。

- ① 受事宾语（受動者目的語）：挂地图（地图を掛ける），看电影（映画を見る）
- ② 结果宾语（結果目的語）：拿主意（心を決める），排队（列に並ぶ；列を作る）
- ③ 对象宾语（対象目的語）：告诉大家（みんなに教える），给别人（他人にあげる）
- ④ 工具宾语（道具目的語）：扇扇子（扇子で扇ぐ；扇子を扇ぐ），烧煤（石炭を燃やす），拴绳子（縄で縛る；縄を縛る），往脸上扑粉（顔に白粉を塗る）
- ⑤ 方式宾语（方式目的語）：弹C调（ハ調で引く），写仿宋体（宋朝体で書く），跳探戈（タンゴを踊る）
- ⑥ 处所宾语（場所目的語）：游昆明湖（昆明湖を泳ぐ），坐飞机（飛行機に乗る），东西在桌子上（物が机の上にある）
- ⑦ 时间宾语（時間目的語）：迎接国庆节（国慶節を（\*で）迎える），祝贺新年（新年を（\*で）祝う），订下星期五（金曜日を予約する；金曜日で予約する）
- ⑧ 目的宾语（目的目的語）：赶任务（任務達成を急ぐ），考研究生（大学院を受験する），量水温（水温を量る）
- ⑨ 原因宾语（原因目的語）：救灾（災害から救う），缩水（水に縮む），挠痒痒（かゆいところを搔く）
- ⑩ 致使宾语（使役目的語）：开门（ドアを開ける），扩大战果（戦果を拡大させる），立纪念碑（記念碑を立てる），满足了群众的愿望（群衆

(27) “去一次”（一度行く），“看一个小时”（一時間見る）等動詞に後続する動作量や時間量を表す成分を準目的語とする考えもある（朱德熙 1982，北京大学中文系现代汉语教研室编 2004）。本稿では補語として扱う。

の願いを満足させた)

- ⑪ 施事宾语 (動作者目的語): 起風 (風が起こる), 下雨 (雨が降る), 来了几个人 (何人ががやって来た), 我的脑子里闪过这种念头 (私の脳裏にこういう考えがよぎった)
- ⑫ 同源宾语 (同源目的語): 睡觉 (眠る), 谈话 (話をする), 跳舞 (ダンスをする)
- ⑬ 等同宾语 (同等目的語): 我是工人 (私は労働者だ), 他长得像他哥哥<sup>(28)</sup> (彼はお兄さんに似ている), 他装病人 (彼は病人を装う)
- ⑭ 杂类 (雑類): 谈心 (心中を打ち明ける), 偷嘴 (盗み食いをする), 推玉米 (トウモロコシ [粉] をひく), 写作业 (宿題をする)

以上大雑把な概観ではあるが、目的語が何れの機能を表す場合も大多数の場合「Oを」「Oに」という形で訳出されることが分かる。

また、この点は単なる語感的な部分だけでなく、少なからず日中対照の部分からの根拠を得ることができる。上に挙げた機能の中には日本語文法書から類似用法の解説が見られる。受動者目的語、結果目的語は日本語のヲ格に類似した機能と重なる部分も少なくない。また、③の対象目的語は二格と重なる部分も少なくない。例えば高橋他 (2005:36) を挙げると、ヲ格について①の受動者機能として「[はたらきかけを受ける対象]、②の結果目的語に当たる機能として「[つくりだす対象 (動作の前には存在しない)』という項目が設定されている。更には、⑥の場所目的語に対しても「とおりすぎる場所 (場所名詞)」という用法を見ることができる<sup>(29)</sup>。

更に高橋他 (2005:36) から二格についても、③の対象目的語に当たるものとして「あいて (ひと名詞)」という解説が挙げられている。

---

(28) 動詞。“像”について孟琮等 (1999) では“象”と記載されているが、現在の規範に従い“像”を用いる。

(29) 以下に高橋他 (2005:36) からは挙げられた例を列举しておく。「歩行者歩道をあるきます」「列車はいまアルプスのたにまをはしている」

その他に挙げられた例であるが、⑪⑬は「動詞＋目的語」の形で一つの意味が形成された例が少なくない。ヲ格を用いた日本語例と対応する意味関係での訳出可能な例も少なくない。⑫の同源目的語に関しても、“我是工人”のような“是”に関しては「～である」という意味関係が日本人話者の中で一種のスキーマとして形成されている点は既に説明した通りである<sup>(30)</sup>。また他の目的語について見ると、⑦の時間目的語はその挙げられた例を見ると、「ある場所で」という発生した場所よりも、モノ性として捉えられるものも少なくない。

日本人のSVO感覚と比較的異色を呈するものとして⑪の動作者目的語、④道具目的語、⑤方式目的語、が挙げられよう。⑪の“起风”“下雨”は事前現象を表し「無主語文」という分類をされる。また“[家里]来了几个人”“我的脑子里闪过这种念头”等は存現文（の中の現象文）に分類される<sup>(31)</sup>。日本人話者の語感からもガ格が目的語の位置に置かれる点に違和感が持たれやすい。こちらは、SVOの基本形式からのリンクとして扱っていったら良いのだろう。

④の道具と⑤の方式は一種の隣接した概念である。道具や方式というのは何かの目的動作があって成り立つものである。④の道具の例はデ格において訳出される文もヲ格での訳出が多く可能（むしろヲ格の方がより自然）となる。道具の場合、その受動者の性格が見だしやすい。何かに対する動作を行う場合、その道具に対する動作が同時に行われる為である。

(30) 例えば同源目的語に挙げられた例の“像他哥哥”の“像”と“他哥哥”関係性に対しても、高橋他（2005：36）で二格に対して「認識の内容」という類似した分類が設定されている（例、すすきのほがゆうれいにみえた／ネコのごえがあかんぼうのこえにきこえる）。

(31) 平山（2008, 2009）でも言及しているが、存現文中の目的語は受事目的語と指摘するものも見られる（李臨定1994, 任鷹2006）。本稿でも存現文における目的語を受動者目的語と見る立場をとる。基本的リンク関係は、紙幅の都合上、稿を改めて論じたい。

例えば，“扇扇子”において「風を扇ぐ」という動作の発生には「扇を扇ぐ」という動作がまず行われる必要がある。

また⑤の方式目的語について任鷹（2000：117）で“用汉语说”と“说汉语”における“汉语”は前者が方式で、後者を受動者と分析している。その際それぞれに対応する「中国語で話す」と「中国語を話す」を取り上げ論証が行われている。即ち「目的語が方式を表す語句でも目的語として用いられた時点で受動者であり、日本語のヲ格と対応する」という主張である。同様の理屈から考えると，“C 调”“仿宋体”というのはそれぞれ「曲を演奏する」、「文字を書く」という前提において成り立つ。よって、実際のニュアンスとしては“弾 C 调”“写仿宋体”はそれぞれ「ハ調（の曲）を演奏する」「宋朝体（の文字）を書く」という訳出した方が妥当なのかもしれない。更には、方式というものの自体後ろに何かの動作の存在があって初めて成り立つものである。例えば、⑥の場所目的語の例において，“飞机”が挙げられている。一方で、次のような表現では方式として解釈される（例(65)は平山 2012 より引用）。

(65) (a) 坐飞机（飛行機に乗る）

(b) 坐飞机去美国（飛行機に乗って【→で】アメリカに行く）

上掲の例は教科書等でも提示されるような連動文である。上の文では後続動作“去上海”の存在が先行する VO の目的語の意味役割を顕現させていることが窺える。以上、VO という範囲だけでの関係性では純粋な方式目的語というものも認知し難いのではないだろうか<sup>(32)</sup>。

更には⑥の場所目的語について補足すれば、教科書や参考書等ではほと

---

(32) 道具や手段の中には元々その役割を持たないものが、構文や表現の中でその役割を担う場面も存在する。例えば“用肉包子打狗”（肉まんを犬を叩く）という例において，“肉包子”（肉まん）は(65)で挙げた“飞机”（飛行機）と異なり、本来は何かの道具ではなく本来の役割は食品である。しかし，“用\_\_打狗”という文の中で道具という範疇に入ることになる陸俭明（2005：160）。

んど説明されることもない“吃食堂”（食堂で食べる）のような共起関係も存在するし、目的語研究の中では議論的となっている。但し、「食堂でご飯を食べる」という場合“在食堂吃”という方が自然な形であるし、「Oを/にVする」タイプと比べると大きな制約が存在することになる<sup>(33)</sup>。

以上、中国語のVO関係の特徴及び日本人話者のバックグラウンドから考察しても、4.2.1節で挙げた「Oを」「Oに」を中心として意味関係を中心にSVOの基準を纏めていく点の妥当性を改めて確認した<sup>(34)</sup>。

## 5. SVOと連用修飾語のコーティング関係

本章では、VOに対する前方コーティングの関係を通して、第2章で示した問題（二）「基本構造SVOの骨子的意義づけ」という点について考察を行う。この点については構造だけでなく意味的コーティングという部分も外国人の立場から中国語を眺める上では整理しておきたい項目である。文成分分析法を使用する際(21)のように核心だけを取り出すと文意が反対になるような弊害は意味的核心の捉え方に対しての合理性が欠けてい

(33) “吃食堂”に関する議論は、王占华（2000）、胡勇（2016）等を参照。

(34) 4.2.1節ではSVO形式を論じたが、SV形式に対する整理も必要な作業となる。SV形式についても、様々な要素が考えられる。①述語の中の目的語の省略（例、你喝可乐吗？我喝[可乐]。（あなたはコーラを飲みますか—私は[コーラを]飲みます））。②述語が自動詞〔我今天休息（私は今日休みます）〕。③SVOの時とSVの時点に動詞の意味が変化する（例、他死了（彼は死んだ）／他死了爷爷（彼はおじいさんが亡くなった）＝例(31)；北京队败（北京チームが負ける）／北京队大败安徽队（北京チームが安徽チームを大いに打ち負かす）＝例(32)《陆俭明 1993b：203》）。施春宏（2004：18）の指摘するSVOとSVの双方の語順をとる動詞において、それぞれ無標形式がどちらになるか異なるという点とも関わってくる。SV形式に関する分析は稿を改めて論じたい。

た点とも関連してくる。以上の点を踏まえて、議論していきたい。

### 5.1 前方コーティング（連用修飾）のタイプ

まずは、同修飾語として用いられるタイプについて幾つか類型を示しておきたい<sup>(35)</sup>。

第3章で述べたが、SVOのVOに対する前方コーティングは連用修飾語が該当する。「状語」（連用修飾語）とはその名の通り用言を修飾するものであり「動詞、形容詞の前で状態、程度、時間、場所等を表す修飾成分」<sup>(36)</sup>となる。修飾というのは平たい言葉を用いれば「かざり」と表現できる<sup>(37)</sup>。通常はその有無が文の核心的意味に影響を及ぼさないという点が類推できる。この点は大多数の連用修飾語に適応できる。以下に連用修飾語のタイプを挙げておく。

#### ① 形容詞

- (66) 快上车吧。(早く車に乗りなさい)《商務印書簡 小学館共編 2016: 880》<sup>(38)</sup>
- (67) 外面很冷, 多穿点儿衣服。(外は寒いので, 服を多めに着なさい)
- (68) 热烈欢迎 (熱烈に歓迎する)《興水・島田 2011:138》
- (69) 你们应该好好儿学习。(あなた達はしっかり働くべきだ)《守屋

---

(35) 本節の目的は連用修飾語の全てを網羅してリストアップすることではない。本文中で示した通り、あくまでコーティング関係から、SVOの骨子的役割を探し出していくという部分にある。よって、紙幅の関係上を鑑み、使用(或いは目にする)頻度がそれほど高くないと思われるものについては特出すべき点が見出せない場合、適宜省略している。

(36) 《現代汉语词典(第7版)》参照。

(37) 相原他(2016: 154)。

(38) 次のように受動者が主語となっている例は対象外とする。: 他的话难懂。(彼の話は分かりづらい)《商務印書簡 小学館共編 2016》

1995：167》

(66)-(69)は形容詞に“地”を伴わずに連用修飾語となる例である。(66)(67)は一音節形容詞<sup>(39)</sup>, (68)(69)は二音節形容詞の例である。何れもSVOが文意的核心となり、その上でコーティングの施された関係と言える。(66)の“快”は“你上车”という前提のもとに動作の取り掛かりを速めるニュアンスを付加している。(67)は“你穿衣服”(あなたが服を着る)という前提のもと“多”を付加することで衣服の量を増やすことが伺える。同様に(68)(69)も、“热烈”“好好儿”は“我们欢迎”(私達が歓迎する)、“你们学习”(あなたが勉強する)という程度情報を加えることになっている。

## ② 指示代名詞

(70) 我们这么办吧。(私たちはこうしましょう)《平山2012》

(71) 你别那么固执! (そんなに意固地にならないで)《平山2012》

指示代名詞“这么/这样”(このように; そのように)、“那么/那样”(そのように; あのように)は動作の方式や程度を表す。(70)で示される“这么”という方式は“我们办~”(私は~を行う)という一連の動作を確認することで認識される。同様に(71)に示される“那么”という程度は“你固执”(あなたが意固地になっている)という事態と共に確認される内容となる。

## ③ 疑問代名詞

疑問代名詞“怎么”は「どのように」という手段を問う意味と、「な

---

(39) (66)のような“快”について中には副詞と分類する考えも見られる。例えば(66)の引用元の商務印書館 小学館共編(2016), 等や《现代汉语词典(第7版)》等が該当する。但し, 当該の“快”を形容詞, 副詞何れに分類しても本稿の議論とは何ら抵触するところではない。

ぜ；どうして」と原因を問う意味を持つ。

(72) 你们怎么办? (あなた達はどうしますか) 《平山 2012》

(73) 他们怎么反对我的意见? (彼らはなぜ私の意見に反対のですか) 《平山 2012》

(74) 你为什么不理我? (あなたはどうして私に構わないの) 《平山 2017a》

手段, 原因に何れの意味を表す場合においても, 疑問文自体は SVO という存在が前提となって問われる内容となる。

#### ④ “地”を用いた連用修飾

構造助詞“地”を用いることにより, 様々な成分と結びついて描写性の連用修飾語を構成する。

(75) 他努力地学习。(彼は一生懸命勉強します) [→二音節形容詞]<sup>(40)</sup> 《平山 2017b》

(76) 妈妈气愤地骂孩子。(お母さんはかんかんになって子供を叱っています) [→二音節形容詞] 《平山 2017b》

(77) 你们应该好好地学习。(あなた達はしっかり勉強すべきだ) [→一音節形容詞の重ね型] 《守屋 1995:167》

(78) 我向上级详细地汇报了情况。(私は上司に事細かに状況を報告しました) [→二音節形容詞の重ね型] 《平山 2017b》

(79) 他们非常热情地招待了我们。(彼らは非常に心をこめて我々をもてなしてくれた) [→修飾フレーズ] 《丸尾 2010:196》

(80) 他无精打彩地回家了。(彼は意気消沈して家に帰った) [→慣用語] 《丸尾 2010:196》

---

(40) 一音節形容詞は連体修飾の“的”を伴えるが, 連用修飾の“地”をつけることはできない(例, 快说(速く話す)→\*快地说; 轻搁(そっと置く)→\*轻地搁)(北京大学中文系现代汉语教研室编 2004:339, 三宅 2012:92)。

上に挙げた連用修飾語において“地”の前には様々な成分が置かれているが、何れも SVO という事象（“他学习～”（彼は～を勉強する），“妈妈骂孩子”（お母さんが子供を叱る），“你们学习”（あなたが勉強する），“我汇报情况”（私が状況を報告する），“他们招待我们”（彼らが私達をもてなす），“他回家”（彼が家に帰る））から顕現される動作者 S の様子を表している。

### ⑤ 前置詞フレーズ

以下に介詞フレーズの例を挙げた。④の“地”を用いた連用修飾語に対して、介詞フレーズは動詞や形容詞の前において限定性を表す<sup>(41)</sup>。

- (81) 公司离东京塔很远。(会社は東京タワーから遠いです)《平山 2012》
- (82) 我们从明天开始放假。(私たちは明日から冬休みになります)《平山 2012》
- (83) 他们在图书馆学习汉语。(彼らは図書館で中国語を勉強します)《平山 2012》
- (84) 小张对历史感兴趣。(張さんは歴史に興味があります)《平山 2012》
- (85) 我跟你说。(私はあなたに言います)《平山 2012》
- (86) 我比哥哥矮一点儿。(私は弟より少し背が低いです)《平山 2012》

上の文では SA ((81)では“公司远”(会社が遠い), (86)では“我矮”(私は「背が」低い)若しくは SVO ((82)では“我们放假”(私達は休みになる), (83)では“他们学习汉语”(彼らは中国語を勉強する), (84)では“小张感兴趣”(張さんは興味がある), (85)では“我说～”(私は～を話す)という命題が、介詞フレーズによって示された状況下にて成立する

(41) 三宅 (2012: 94)

ことが示される。

次に、“把”構文の例を見ておきたい。以下のタイプは通常の SVO において目的語の位置に処するものが介詞フレーズの位置にて用いられる。

(87) 我**把葡萄**放冰箱里了。(わたしは**ブドウを**冷蔵庫に入れました)

《平山 2012》

(88) **把U 盘**拿来。(U**BS メモリを**持ってきて)《平山 2012》

上の例においても“我放葡萄”(私が葡萄を入れる)，“[你]拿U 盘”([あなたが]USB を持つ)という SVO の存在を見いだすことができるが、更には受動者成分が特定成分となることで、「何かをか」ではなく「どうなったのか」という点に焦点が置かれる。言わば、受動者よりも動作の方に際立ちが持たれた形と言える。更には、動作対象に対する“移请”(感情移入)という主観性が付加されることとなる(沈家煊 2002: 394)。

次に受け身文である。こちらは、動作者が介詞フレーズとして用いられている。

(89) 我的游戏机**被妈妈**扔在垃圾桶里了。(わたしのゲーム機は**お母さん**

**に**ゴミ箱に捨てられました)《平山 2012》

(90) 我的自行车**被小偷**偷走了。(私の自転車は**泥棒に**盗まれました)

《平山 2012》

上の例では、“妈妈扔我的游戏机”(お母さんが私のゲームを捨てる)，“小偷偷我的自行车”(泥棒が私の自転車を盗む)という SVO の存在が基盤となっている。通常目立たせる必要のない成分を介詞フレーズの位置に置くこととで、「捨てる」「盗む」という事態を有標化させている点が窺える。また、受け身文に関しては、通常「不利益のニュアンスを含む」と説明されるが、ここにも話者の感情移入という話者の主観性による修飾を見いだすことができる(沈家煊 2008: 394)。

## ⑥ 時間名詞

時間名詞が連用修飾語で用いられる時「いついつに」という動作発生の時点を表す。

- (91) 他明天回老家。(彼は明日実家に戻ります)《平山 2012》  
 (92) 我今天打扫房间。(私は今日部屋を掃除します)《平山 2012》  
 (93) 我们下午一点吃午饭。(私達は午後 1 時に昼食を食べます)《平山 2012》

上の例において“明天”（明日），“今天”（今日），“下午一点”（午後 1 時）はそれぞれ，“他回老家”（彼は帰省する），“我打扫房间”（私は掃除する），“我们吃午饭”（私達は昼食を食べる）という動作の発生を前提とし、その時間を示している。

一つ他の修飾語と顕著な差異の見られる点と言え、主語としての性質を帯びていることである。即ち、時間成分は“回老家”，“打扫房间”，“吃午饭”というどうするのかという陳述や説明を受ける対象ともなる。この点は、上の 3 例に関して「彼は、明日は帰省します」「私は、今日は部屋を掃除します」「私達は、午後 1 時は昼食を食べます」と時間を表す成分の後に「は」を付加できる点から見ても、理解しやすい点も言えよう。

また統語的振舞いに関しても主語と捉えられるような特徴も見ることができる（以下(94)-(96)は朱德熙（1982：97）より引用）。

- (94) (a) 今天下午开会。(今日の午後会議があります)  
 (b) 今天下午开不开会？(今日の午後会議がありますか)  
 (95) (a) 晚上会下雨。(夜雨が降るだろう)  
 (b) 晚上会不会下雨？(夜雨が降るだろうか)  
 (96) (a) 教室里在上课。(教室で授業が行われています)  
 (b) 教室里是不是在上课？(教室で授業が行われていますか)

朱德熙（1982：97）では主語の判定基準の一つとして反復疑問文にすることができるかという点を挙げている（“你去”（あなたは行く）→“你去

不去?”(あなたは行きますか);“他抽烟”(彼はタバコをする)→“他抽不抽烟?”(彼はタバコを吸うだろうか)。上の例において時間名詞は、主語としての特徴が見られることが分かる<sup>(42)</sup>。

⑦ 副詞

次に副詞の例である。①～⑥に関しては、それぞれ連用修飾語としての特徴の差異は見せつつも、SVO という文意的核心の基にコーティングの施された形式と言える。副詞も同様に多くの場合はSVOを文意的核心と見なすことができる。前者の例を挙げておきたい(副詞の機能は各例文後に付した[→]を参照)。

(97) 汤有点儿咸。(スープはちょっぴり塩辛い) [→程度] 《平山 2012》

(98) 她很喜欢听爵士乐 [彼女はジャズを聴くのがとても好きだ] [→程度] 《守屋 1995》

(99) 我一共有三双皮鞋。(私は全部で革靴を3足持っています) [→範囲] 《平山 2012》

(100) 我哥哥在看新闻。(兄はニュースを見ています) [→時間] 《平山 2012》

(101) 她已经结婚了。(彼女は既に結婚しました) [→時間] 《相原他 2016: 143》

(102) 天渐渐黑下来了。(空がだんだん暗くなってきた) [→様態] 《丸尾 2010: 196》

(103) 我也去北京。(私も北京に行きます; 私は北京にも行きます) [→

---

(42) 更に補足すれば、(94)(95)(96)の日訳に関しても時間成分の後に「は」を付加することも不可能でない。(94)a. →今日の午後は会議があります。b. →今日の午後は会議がありますか。(95)a. →夜は雨が降るだろう。b. →夜は雨が降るだろうか。(96)a. →教室は授業が行われています。b. →教室は授業が行われていますか。以上、日本語との特徴的類似性を見ることができる。

関連] 《平山 2012》

(97)(98)の“有点儿”，“很”は“汤咸”（スープは塩辛い），“她喜欢听爵士乐”（彼女はジャズを聴くのが好きだ）という命題に対してその程度情報を付け加えている。(99)の“一共”は“我有三双皮鞋”という前提に対して「三册」が合計数であることを加えている。(100)の“在”，(101)の“已经”は“我哥哥看新闻”（私の兄がニュースを見る），“她结婚”（彼女が結婚する）という事態に対する話者の時間感覚が反映されている。(102)の“渐渐”は“天黑”という状態から顕現される様態が示されている。(103)の“也”に関しては意味的にかかるのが前方（“我”（私））と後方（“北京”（北京））の双方の状況が存在する<sup>(43)</sup>。“我去北京”という事態を確認した上で他の動作（例．“他去北京”（彼は北京に行く）；“我去上海”（私は上海に行く））と対比して同類にあることが読み取れる。

## 5.2 認知的核心としての SVO

一方で、副詞による連用修飾は必ずしも全てのパターンについてその理屈が成り立つとは限らない。SVO が文意的核心になり得ない点については 3.1 節の文成分分析に対する局限について言及した通りである。幾つかのパターンにおいては SVO が前提命題と捉えられないパターンを挙げておきたい。まずは、(16)でも取り上げた否定文を挙げておきたい。

(104) 她不吃面包。(彼女はパンを食べません) [→否定] 《平山 2012》

(105) 他们没有吃午饭。(彼らは昼食を食べませんでした) [→否定]  
《平山 2012》

---

(43) “也”が前にかかる場合は、修飾される部分が構造と意味においてずれが生じることになる。この点は、日本語の「も」に引きずられた“\*我也”（私も）のような誤用にも繋がってくる（張恒悦 2017）。更には、本稿では深く立ち入らないが、このような構造と意味に対する修飾のずれが生じる要因についても究明していく必要があるだろう。

上の文について文成分分析法の考え方をとり SVO という核心を捉えるならば、“她吃面包”（彼女はパンを食べる），“他们吃午饭”（彼らは昼食を食べる）と全く正反対の文意を表す。このような矛盾が生じるのは、SVO を文意的核心と捉えているからであろう。

そもそも否定というのは「相対応する肯定命題が設定されており、且つ肯定命題に対する否認或いは反駁を表す」という機能を有する（沈家煊 1999：57；杉村 2005）。即ち(104)(105)を例に取れば、話者は“她吃面包”，“他们吃午饭”という肯定命題を認知しているということになる。この点から見る時、SVO は言わば認知的核心という表現できよう。

他の例を見てみよう、推量を表す語気副詞を用いた例である。

(106) 电脑好像出了毛病。(パソコンは故障したようです)〔→語気〕  
《平山 2012》

(107) 他也许有事。(彼はあるいは用事があるのかもしれない)〔→語気〕  
《興水・島田：316》《平山 2012》

上の例は“好像”“也许”が付加されることで、“电脑出了毛病”（パソコンが故障した），“他有事”（彼は用事がある）という内容が不確定要素であることが伺える。よって、前提命題としての機能を有していない。文意として“电脑没有出毛病”（パソコンが壊れていない），“他没有事”（彼は用事がない）、と相反する命題の存在も内在的要素として意味の含みを持つことになる。言わば、ここで SVO の部分は話者の中で認知的核心を表している。

更には、関連副詞を用いた例を幾つか挙げておきたい。

(108) 如果没有事，我就去。(もしも用事がなければ，私は行きます)  
《平山 2017b》

(109) 只要电视播放足球赛，我就一定看。〔テレビでサッカーの試合があれば，私は必ず見ます〕《守屋 1995：239》

(110) 只有国家富强，人们的生活水平才会提高。〔口が富み栄えてこそ，

人々の生活レベルは**向上する**]《守屋 1995：239》

上の例では、それぞれある条件を満たすことで SVO という命題の成り立つことが分かる。(108)では、“有事”（用事がある）という状況であれば、“我不去”（私は行かない）という事態の存在が読み取れる。同様に、(109)では「テレビでサッカーの試合が放映されない」という状況では「テレビを見ない」という事態も想定内となる。(110)では、“国家富强”という前提が崩れた場合、“人们的生活水平不会提高”（人々の生活のレベルは向上しないだろう）という否定命題の含みを持つ。何れも、関連副詞を取り去った後の SVO は文意的核心にはなり得ない。但し、認知的核心としての機能を見出すことができる<sup>(44)</sup>。

## 6. おわりに

本稿では、中国語文法体系と日本人学習者の言語背景の融合というコンセプトのもと、日本人学習者にあった中国語語順体系について触りの部分を次の流れで論じていった。第1章で問題を提起する。第2章で基本語順 SVO とコーティング関係という考えを提示する。第3章で既存の代表的構造分析の利点と局限を確認し、直系成分分析を中心とした語順分析を提示する。第4章で日本人話者に適した基準的 SVO に対して考察する。第5章で SVO の連用修飾コーティングを観察し、SVO は文意的核心ではなく認知的核心であることを指摘する。

以上、本稿では構造と意味という二種の尺度を用いて SVO とそのコーティング関係について分析を行った。二つの尺度を融合させるということ

---

(44) SVO を認知的核心とした他の構文とのコーティング関係については、3.1 節 (29)-(33)で挙げた文成分分析で矛盾の生じる関係性（可能補語、SV と SVO で意味変化の生じるパターン、受動者主語文）についても適応できると考えている。この点については、紙幅の都合上別稿に譲る。

は長所をとって短所を補うことでより合理的な分析が期待できる一方で、基本軸の明確さを欠き主観性や独善性に陥りやすくなり客観性に欠くという危険性も含むものである。この部分の折り合いをつけていくことも、重要な作業となる。

本稿では、語順分析の触りの部分を扱ったに過ぎない。詳しい内部構造に関しては、今後稿を改めて論じていきたい。

### 参考文献

(中国語)

- 北京大学中文系现代汉语教研室编 (2004) 《现代汉语 (重排本)》，北京：商务印书馆。
- 储泽祥 王艳 (2016) 汉语 OV 语序手段的指称化效用《语言教学与研究》，第 3 期，318-330 页。
- 戴浩一著 黄河译 (1988) 时间顺序和汉语的语序《国外语言学》，第 3 期，10-20 页。
- 胡勇 (2016) “吃食堂”的认知功能分析《世界汉语教学》，第 3 期，342-355 页。
- Joseph H. Greenberg 著 陆丙甫 陆致极译 (1984) 某些要跟语序有关的语法普遍现象《国外语言学》，第 2 期，45-60 页。
- 李临定 (1994) 施事，受事和句法分析《李临定自选集》，河南：大象出版社，144-159 页。
- 刘丹青 (2003) 《语序类型学与介词理论》，北京：商务印书馆
- 陆丙甫 (2008a) 语序类型学理论与汉语句法研究《当代语言学理论和汉语语法研究》，北京：商务印书馆。
- 陆丙甫 (2008b) 直系成分分析法——论结构分析中确保成分完整性的问题《中国语文》第 2 期，129-139 页。
- 陆俭明 (1993a) 《八十年代中国语法研究》，北京：商务印书馆
- 陆俭明 (1993b) 分析方法刍议——评句子成分分析法《陆剑明自选集》，北京：商务印书馆，199-219 页
- 陆俭明 (2005) 《现代汉语语法教程 (第三版)》，北京：商务印书馆。
- 孟琮 郑怀德 孟庆海 蔡文兰 (1999) 《汉语动词用法词典》，北京：商务印书馆。
- 任鹰 (2000) 《现代汉语非受事宾语研究》，社会科学出版社。
- 沈家煊 (1999) 《不对称标记论》，南昌：江西教育出版社。
- 沈家煊 (2002) 如何处置“处置式”？——论把字句的主观性《中国语文》，第 5 期，387-410 页。

- 沈家煊（2008）“移位”还是“移请”？——析“他是去年生的孩子”《中国语文》，第5期，1-10页。
- 施春宏（2004）汉语句式的标记度及基本语序问题《汉语学习》，第2期，10-18页。
- 王占华（2000）“吃食堂”的认知考察《语言教学与研究》，第2期，58-64页。
- 杨德峰（2005）VC1C2带宾语的位置及形成的句式《汉语教学学刊（第一辑）》，84-99页。
- 杨德峰（2008）《日本人学汉语常见语法错误释疑》，北京：商务印书馆。
- 张国宪 卢健（2013）从始点之视——汉语定语的时空视角走向，中国文法論叢刊行会編《木村英樹教授還暦記念 中国文法論叢》白帝社。
- 张道生（2013）句法层面的语序与句子层面的语序——兼论一价谓词带宾语与副词状语表程度《语言研究》，第3期，40-51页。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编（2016）《现代汉语词典（第7版）》，北京：商务印书馆。
- 朱德熙（1982）《语法研究》，北京：商务印书馆。

## （日本語）

- 相原茂（2010）『中日辞典（第3版）』，東京：講談社。
- 相原茂 石田知子 戸沼市子（2016）『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』，東京：同学社。
- 張恒悦（2017）「同類」を表す「也」と「も」——日本語母語話者が算出した誤用例の分析を通して——『中国語教育』第15号，37-59頁。
- 平山邦彦（2008）「日本人学習者を対象とした中国語教育に関する一考察—その言語背景を考慮に入れて」『拓殖大学 語学研究』第117号，1-32。
- 平山邦彦（2009）「存現文教学に関する一考察」『中国語教育』第7号，中国語教育学会，64-86頁。
- 平山邦彦（2012）語順で覚えよう！ ワンフレーズ中国語『NHK ラジオテキスト ト まいにち中国語』4-6月号。
- 平山邦彦（2017a）『新版 口を鍛える中国語作文——語順習得メソッド 初級編』，東京：国際語学社
- 平山邦彦（2017b）『新版 口を鍛える中国語作文——語順習得メソッド 中級編』，東京：国際語学社
- 興水優 島田亜実（2009）『中国語 わかる文法』，東京：大修館書店。
- 丸尾誠（2003）「文法事項の体系的理解を目指した中国語教授法について『中国語教育』創刊号，24-40頁。
- 丸尾誠（2010）『基礎から発展まで よく分かる中国語文法』，東京：アスク出版。

- 三宅登之 (2012) 『中級中国語 読みとく文法』, 東京: 白水社。
- 守屋宏則 (1995) 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』, 東京: 東方書店。
- 大西泰人 ポール・マクベイ 『一億人の英文法』, 東京: 東進ブックス。
- 北京・商務印書館 小学館共編 (2016) 『中日辞典 (第3版)』, 東京: 小学館。
- 陸偉榮 (2016) 『中国語作文語順完全マスター』, 東京: コスモピア。
- 林松濤 (2011) 『つながる中国語文法 1週間で基本をざっくりマスター』, 東京: Discover
- 林松濤 王怡韡 (2013) 『シンプル公式で中国語の語順を制す』, 東京: コスモピア。
- リンゼイ J. ウェイリー 著 大堀壽夫 古賀裕章 山泉実訳 (2006) 『言語類型論 入門 — 言語の普遍性と多様性』, 東京: 岩波書店。
- 瀬戸口律子 (2003) 『完全マスター 中国語の文法』, 東京: 語研。
- 杉村博文 (2005) 否定情報の獲得と応用 『中国語学』 252号, 36-60頁。
- 高橋太郎 金子尚一 金田章宏 齋美智 鈴木泰 須田淳一 松本泰丈 (2005) 『日本語の文法』, 東京: ひつじ書房。
- 高橋弥守彦 (2006) 『実用詳解中国語文法』, 東京: 郁文堂。
- 高橋弥守彦 (2009) 「他走下楼来了。」について 『日中対照言語研究論集』 第11号, 16-30頁。
- 高梨健吉 (1970) 『詳しい解説と段階的演習・総解英文法』, 京都: 美誠社。

[付記]

本稿は平成28年度言語文化研究所研究助成による成果の一部である。

(原稿受付 2017年11月21日)